

# 館報 小市団地

第57号  
小市団地公民館  
発行者  
藤田恵理子



令和六年 宮川元宏様より寄贈「菅平を望む」

## 人と人とのつながり



昨年4月より区長という大役を仰せつかり、未熟者の私に務まるものか不安を抱えながら、役員、専門部の皆様のご支援により、なんとか活動してまいりました。

昨年度のコロナ5類移行を受け、小市団地自治会もほぼコロナ禍以前の活動を行うことができるようになりました。それぞれの専門部の皆様の積極的な取り組みに、深く感謝申し上げます。特に公民館活動は、ふれあいの場として重要な役割もつており、どの活動も地域の皆様の交流と親睦をはかり、地域を盛り上げていただきました。

高齢化傾向の激しい私どもの地域には多くの課題がありますが、それらの解決の基本は「人と人とのつながり」であろうと思います。身近な地域の絆をいかに深めていくかということは、なかなか難しいことです。

区長 山田登志夫

行事等がコロナ禍以前に戻ってできるようになったと言っても、以前のままではなかなか思うようにいかない現実があります。知恵を絞りあつて『明るい住みよい地域づくり』を目指していきたいものです。

今回大役を務めさせていただいた中で、今まで見えていなかったことに気づくことができました。それは、役員だからというのではなく、頼まれたからというのでもなく、地域の住民として、この町のために人知れず尽くしてくださる方が多く居るということです。黙々と草刈りをしていただいている方、懸案だった藤蔓をいつの間にか片付けてくださる方、婦人部がなくなつて寂しかろうと新年会に豚汁を作ってくださいる方、等々。

改めて、皆さまのご協力に感謝申し上げます。小市団地自治会の今後の発展をお祈りし、退任のご挨拶といたします。



### ゆるくて温かい繋がりへ 公民館ができること

公民館長 藤田恵理子

コロナが5類に移行し、ここ数年自粛していた公民館活動が正常に戻った令和六年、「私には荷が勝ちすぎる…」と半ば『まな板のこい』の気分でお引き受けした公民館長でしたが、どうか計画どおりに実施でき、次期役員さんに引き継ぐ所まで来る事ができました。

少ない人数で準備運営に携わってくださった公民館スタッフ、参加住民の皆さん、力を貸してくださった各役員ならびに執行部の皆さんに心より御礼申し上げます。  
小市団地に越してきた中学生

当時は桜の樹も若く、そこかしこに子供の声が響いていました。団地行きのバスの本数も20分に1本、バス停近くの酒井商店さんの店先で、子どもたちはアイスクリームケースを覗いたものでした。そこには昭和の団地の風景が広がっていました。

あれから50余年、子供たちが巣立ち、団地は老朽化し、賑わいが少しずつ遠のきました。公民館活動からも夏の「盆踊り」や「運動会」「クラブや同好会」が消えました。当時自治会の基盤を作り、率いてくださった皆様も今は80代、90代。痛む足にもかかわらざり行事のたびに集会所に向向き、いまだに協力くださっています。団地の集まりが少なくなつ

た一方、当団地には団地行事に留まらず独自に活動するコミュニティが育ちました。「遊び隊」による野菜販売や「お茶のみサロン」など、住民間の繋がりを絶たないための取り組みも多々あります。すばらしい事だと思えます。

非力な私では一連の行事(団地行事と安茂里地区文化教育委員会行事)をこなすだけで精一杯でしたが、他安茂里地区の活発な活動を知るにつけ、当団地でも、住民間のゆるくて温かい繋がり。のためにもつとできる事があつたかもしれないと思えました。そんな反省とともに今後に期待を託し、時期役人の皆さんにバトンをお渡ししたいと思います。

### 令和六年度

### 安茂里地区・小市団地公民館 活動報告

#### 【令和六年】

- 4月14日 小市団地「さくら祭り」31名参加
- 5月26日 第50回 安茂里地区スポーツの祭典「マレットゴルフに4名参加」
- 8月4日 小市団地「夏祭りとおやき・ともろこし販売：ピアガーデン」20名参加
- 9月 4地区運動会・・・中止
- 10月12日 集会所大掃除
- 10月13日 スポーツ教室(少年少女サッカー・ティーボール・スポーツ吹き矢)
- 10月27日 安茂里地区「アモーレフェスタ」
- 11月17日 安茂里地区「第33回杏の里文化講演会」「気候変動と南方の虫たち」64名参加
- 11月30日 安茂里地区「お悩み相談・カウンセリング」
- 12月10日 安茂里地区「映画を楽しむ」『家族はつらいよ』鑑賞
- 12月15日 小市団地「しめ縄づくり・ぼた餅販売」

#### 【令和七年】

- 1月4日 安茂里地区成人祝賀式 当団地からも1名参加
- 2月2日 小市団地「人権・交通安全研修会 & お茶のみサロン」 33名参加
- 2月8日 安茂里地区人権を考える住民の集い「インターネットと人権」
- 3月 小市団地 公民官報発行

※緑色が小市団地行事です



4月14日  
「さくら祭り」



5月26日  
スポーツの祭典  
「マレットゴルフ参加」



2月2日  
交通安全研修会



2月2日  
人権教育研修会  
認知症を学ぶ



● 2月2日 ●  
**お茶のみサロン**



● 8月4日 ●  
**夏祭り**



● 12月25日 ●  
**しめ縄づくり**

### 今年の一年

小市団地さわやか白寿会

宮尾邦彦

令和六年度の活動に、会員各位はもとより、自治会、関係各位の皆様のご協力により、年度を終わりました事に感謝申し上げます。

白寿会の活動は、年度の計画は達成されたと思います。上部団体（市老連、安茂里労連）関係のイベント参加や、各種大会への出席など、老人会としての義務も果たして来ました。

### 令和六年度の活動を振り返って

健康福祉部会 大谷ふさ枝

今年度の活動として『お茶のみサロン』を3回開催し、『福祉バザー』の参加を行いました。

六月、集会所に響き渡るサクスの音色。迫力ある演奏会は至福のひとつでした。

十一月、自治会とコラボ企画。防災訓練と炊き出し体験を。同じ鍋の『とん汁』をすすり、災害時の不安など語り

白寿会独自の行事では、月二回のカラオケ教室とスマイルボウリング練習の実施、秋の日帰りレクリエーションの開催を進めて来ました。

会員数の拡大は安茂里労連でも大きな懸案事項です。白寿会は現在四十一人ですが、今年は六人の新規会員が有りました。大変有難とう御在います。来年度も会員増に成ります様、「白寿会に入って良かった」と云われるように頑張りますので、宜しくお願ひします。

合いました。

年が明け二月、『人権・交通安全研修会』とコラボ企画。各研修終了後、参加者全員で会場作りを行い、お茶会へ。食べて笑って楽しい時間を過ごさず事ができました。

来年度も皆様と笑顔でお会いできる『サロン』を企画したいと思っております。

### 委員活動に寄せて

民生児童委員 下崎久美子

年度末ですが、民生児童委員の任期は12月～翌年11月で一三年です。私は二期目で今年の11月で終了となります。六年間、色々協力いただき、お世話になりました。ありがとうございます。

小市団地は高齢化率の高い安茂里地域の中でも、特に超高齢化地域ですが、月一回ご近所の無事を確認し、協力して清掃活動を行い、とても素晴らしい地区と思われま。

民生委員はけっして『力』を持つている訳ではありませんが、各公共機関へ繋ぐことができますので、お気づきの事、お困り事等がありましたら、どうぞご相談ください。ご一緒に対応できると幸いです。





桃源郷のような4月の小市団地（小市橋方面から望む）

### 美化部活動を振り返り

環境美化部長 松尾誠一

令和六年度は異常気象の元、雑草の伸びも早く、一年間大変な年でした。そんな中でも区民の皆様、役員の方、美化部員の多大なる御協力のおかげで一年無事終える事が出来ました。ありがとうございます。

団地内のゴミの事ですが、ゴミの出し方に3点ほどお願いがあります。

### 活動を振り返り

交通安全推進委員 山本舜三

令和六年二月二日、『交通安全教室』と公民館の『人権勉強会』『お茶のみサロン』を三位一体で行い、三十三名の参加者を得ました。ありがとうございました。

交通安全の寸劇は皆さんの参考になったと思う。

私個人的には安協十五年、安推十四年、育成会長五年、会計四年、副区長四年、区長三回、都合四十一年やらせて

1点目、可燃・プラ・不燃きちんと分別して出して下さい。

2点目、ペットボトルはシールをはがし、キャップを取る事。

3点目、公共のゴミ袋は個人のゴミに使わない。

以上宜しく願います。

団地の美化活動に、思いやりの精神で皆で頑張っていきましょう。

一年間本当にお世話様でした。又会う時まで!!

いただきましたが、一昨年は脊椎かん狭窄症、昨年は急性心筋梗塞やら引越し等、大変な一年でした。八十路を超え、体力低下が感じられる昨今、安推をどなたかにと、人材物色中です。

この四十一年間支え続けて下さった方々に心より感謝申し上げます。小市団地地区の益々のご発展をお祈り致します。

終わりに『知識は力なり』よく知り、他人に話し、援助しよう。

### 編集後記

この公民官報が皆様のお手元に届く頃、穏やかな春の兆しに「花はもうすぐ・・・」と心躍る季節となつていよう。

かつて安茂里地区一帯は「アンズの里」と呼ばれ、春になると握りつけたように咲く杏が山肌一面をピンクに染めていました。いつの間にか杏畑は住宅に変わり、安茂里から春の色は消えました。

一方近年、小市橋（川中島方面）から対岸を見ると桃源郷か？と見まがうピンクの斜面が広がります。そう、そこが小市団地。先達によって植えられた桜の苗がすっかり大木となり、毎年みごとな花を咲かせてくれます。電車通勤の友人が車窓から見えるこの風景を毎年楽しみにしていると話してくれました。今では桜の名所となった我が団地。古木となった桜はあと何年咲きこぼれる春を私たちに見せてくれるでしょう。

